



奄美大島から得られた薩南諸島初記録および太平洋における北限記録の トガリメザメ（メジロザメ科）

中村潤平¹・山田守彦¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ いおワールドかごしま水族館（鹿児島市）
 JN: j-nakamura@ioworld.jp (corresponding author)
² 鹿児島大学総合研究博物館（鹿児島市）
 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 08 August 2021
 Revised 11 August 2021
 Accepted 12 August 2021
 Published 12 August 2021
 DOI 10.34583/ichthy.11.0_17

Jumpei Nakamura, Morihiko Yamada and Hiroyuki Motomura. 2021. Male and female specimens of the Sliteye Shark *Loxodon macrorhinus* (Carcharhiniformes: Carcharhinidae) from Amami-oshima island, Amami Islands, Satsunan Islands, Kagoshima Prefecture, Japan: the first records from the Satsunan Islands and the northernmost records for the species in the Pacific Ocean. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 11: 17–20.

Abstract

Two specimens (male and female) of the Sliteye Shark *Loxodon macrorhinus* Müller and Henle, 1839, distributed in the Indo-West Pacific, were collected from west of Amami-oshima island, Amami Islands, Satsunan Islands, Kagoshima Prefecture, Japan. In Japanese waters, *L. macrorhinus* has previously been recorded only from southern parts of the Ryukyu Islands. Therefore, the Amami specimens represent the first records of *L. macrorhinus* from the Satsunan Islands, and also the northernmost records for the species in the Pacific Ocean.

メジロザメ科魚類 Carcharhinidae は日本国内から 8 属 22 種が記録されており、眼が円形で瞬膜がある、背鰭が 2 基で、第 1 背鰭が腹鰭よりも前に位置する、尾鰭下葉が突出する、尾柄に凹窩がある、および鰓孔が 5 対などの特徴をもつ（仲谷, 2011；中坊, 2018）。

本科魚類のトガリメザメ属トガリメザメ *Loxodon macrorhinus* Müller and Henle, 1839 はインド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布し、最大で全長 1 m ほどに達し、胎盤タイプの胎生であることが知られている（Springer, 1964；仲谷, 2011）。

2021 年 3 月に鹿児島県奄美大島西岸沖の水深 180–200 m 地点において 2 個体のトガリメザメが釣獲された。これまで本種は国内において琉球列島南部（正確な産地情報を

伴う記録は八重山諸島のみ）からのみ記録されていた（仲谷, 1984；青沼ほか, 2013；下瀬, 2021）。そのため、奄美大島産の標本はトガリメザメの薩南諸島における初めての記録であると同時に、本種の太平洋における分布の北限記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

標本の計測方法は岸本ほか（2006）にしたがい、ノギスを用いて 1 mm 単位でおこなった。全長（total length）は TL と表記した。生鮮時の体色の記載は、固定前に撮影されたカラー写真（Fig. 1）に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村（2009）に準拠した。本報告で用いられた標本は、鹿児島大学総合研究博物館（KAUM）に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告で用いた研究機関略号は Sabaj (2020) にしたがった。

Loxodon macrorhinus Müller and Henle, 1839

トガリメザメ

(Figs. 1, 2; Table 1)

標本 KAUM-I. 156030, 雄, 全長 644 mm, KAUM-I. 156031, 雌, 全長 630 mm, 鹿児島県大島郡大和村沖 奄美群島奄美大島西岸沖, 水深 180–200 m, 釣り, 2021 年 3 月 16 日, 山田守彦。

記載 体は細長い紡錘形。体背縁は吻端から第 1 背鰭起部にかけて緩やかに上昇し、そこから尾柄部にかけて緩やかに下降する。尾柄部上縁に欠刻がある。体腹縁は吻端から胸鰭後方付近にかけて下降し、そこから尾柄部にかけて緩やかに上昇する。吻は長く、突出する。眼は大きく、円形で後縁に欠刻があり、瞬膜がある。瞳孔は前後方向に細長い楕円形。吻部と眼の後方に多数のロレンチーニ瓶が並ぶ。鼻孔は眼の前縁前方に位置する。噴水孔は極めて小さく、眼の後縁後方に位置する。口は下位。口裂の先端は眼の中央直下付近に位置する。両顎には鋭い三角形の歯が並ぶ。歯は湾曲し、縁辺は滑らか。鰓孔は 5 対。背鰭は 2

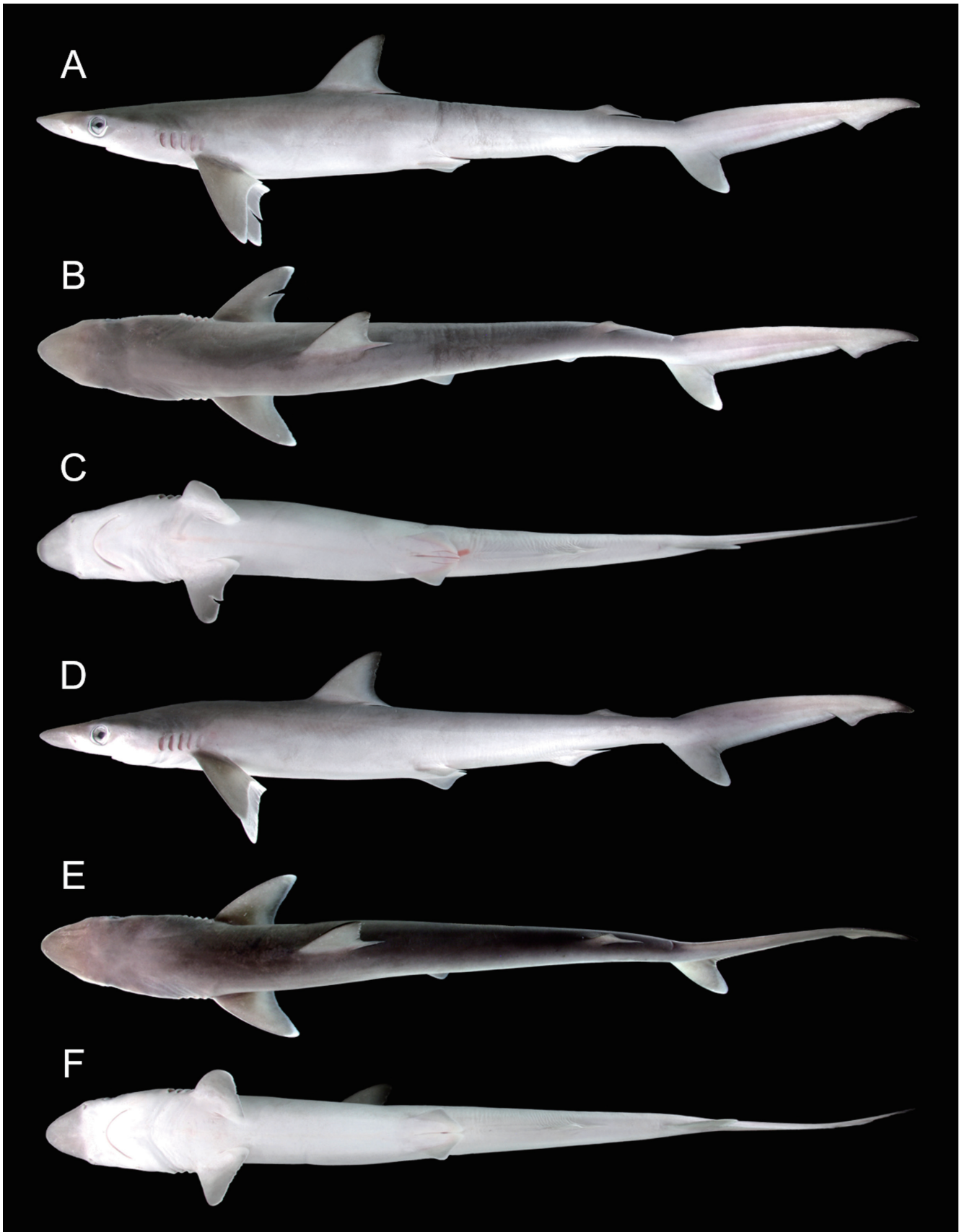


Fig. 1. Fresh specimens of *Loxodon macrorhinus* from Amami-oshima island, Amami Islands, Kagoshima Prefecture, Japan (A–C: KAUM–I. 156030, male, 644 mm TL; D–F: KAUM–I. 156031, female, 630 mm TL; A, D: lateral views; B, E: dorsal views; C, F: ventral views).

基で、棘をもたない。第1背鰭と第2背鰭は離れ、第1背鰭は第2背鰭より著しく大きい。第1背鰭起部は胸鰭基底後端より遥かに後方、第1背鰭基底後端は腹鰭起部より前方にそれぞれ位置する。第1背鰭は三角形で、先端はやや

丸みを帯び、後縁は湾入し、後端は伸長する。第2背鰭起部は臀鰭基底後端直上付近に位置する。第2背鰭は低い三角形で小さく、先端は丸みを帯び、後端は長く伸長する。胸鰭基底上端は第4鰓孔直下に位置する。胸鰭は鎌状で

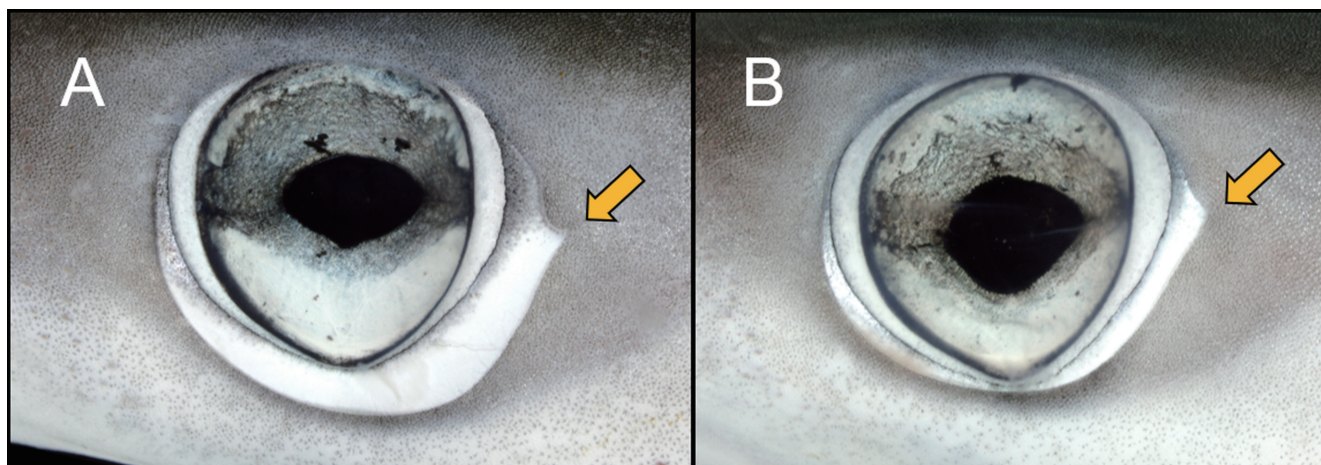


Fig. 2. Eyes of fresh specimens of *Loxodon macrorhinus* (A: KAUM-I. 156030, male, 644 mm TL; B: KAUM-I. 156031, female, 630 mm TL). Arrows indicate notches.

大きい。腹鰭は菱形で小さく、雄個体 (KAUM-I. 156030) は両腹鰭の内側に交尾器がある。臀鰭は三角形で、第2背鰭より大きく、先端は丸みを帯び、後端は伸長する。尾鰭は異尾で、上葉は長く、下葉は短い。尾鰭上葉の先端はやや尖り、後縁上方に切れ込みがある。尾鰭下葉の先端は丸みを帯びる。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) — 頭部と体側の背部は灰色で、腹部は白色。瞳孔は黒色で、虹彩は灰色、眼の周辺

は白色。鰓孔は赤みがる。第1背鰭と第2背鰭は灰色で、後縁は黒く縁どられる。胸鰭は灰色で、後縁は白色。腹鰭と臀鰭はやや灰色がる白色。尾鰭は灰色で、後端周辺は黒色。

分布 紅海・アフリカ大陸東岸から日本とオーストラリア北岸にかけてのインド・西太平洋に広く分布し (Springer, 1964; 久新ほか, 1977; Compagno, 1984; 仲谷, 2011), 日本国内においては琉球列島南部からのみ記録されていたが (青沼ほか, 2013; 下瀬, 2021), 本研究により新たに鹿児島県奄美大島における分布が確認された。

備考 本標本は体が細長い、眼の後縁に欠刻がある (Fig. 2), 第2背鰭が第1背鰭より小さい, 第1背鰭が胸鰭と腹鰭の中間に位置する, 第2背鰭が臀鰭基底後端直上付近に位置する, 臀鰭が第2背鰭より大きい, 両顎歯はほぼ同形で、縁辺が滑らか、および体色が灰色で腹面が白いなどの特徴により Springer (1964), 久新ほか (1977), 仲谷 (1984, 2011), および青沼ほか (2013) が報告したトガリメザメ *L. macrorhinus* の標徴と一致したため本種に同定された。

Loxodon macrorhinus は Springer (1964) により東シナ海産標本 (UMMZ 177117, 産地の詳細は不明) により日本国内から初めて報告された。その後、久新ほか (1977) はインド洋東部から *Loxodon macrorhinus* を報告し、本種の分布域に南日本を含めるとともに、本種に対して和名トガリメザメを提唱した。また、仲谷 (1984) はトガリメザメの標本写真を掲載し、本種の国内における分布を南日本とし、日本産メジロザメ科魚類をまとめた青沼ほか (2013) は本種の国内における分布域を琉球列島南部とした。下瀬 (2021) は八重山諸島で漁獲されたトガリメザメの写真を掲載し、八重山海域ではサメ駆除の際に年に数個体漁獲される旨を記した。

したがって、トガリメザメの詳細な産地情報を伴う国内からの記録は、下瀬 (2021) の八重山諸島のみであり、国内で他の地域において本種の標本や写真などの根拠を伴

Table 1. Morphometrics (expressed as % of total length) of *Loxodon macrorhinus* from Amami-oshima island, Kagoshima Prefecture, Japan.

	KAUM-I. 156030 Male	KAUM-I. 156031 Female
Total length (mm; TL)	644	630
Pre-caudal length	71.1	71.6
Head length	20.2	20.8
Trunk length	23.4	24.3
Tail length	26.7	26.3
Snout-vent length	43.8	44.3
Body depth	9.0	8.4
Caudal-peduncle depth	2.8	2.7
Pre-orbital length	7.9	8.3
Pre-oral length	8.1	8.9
Prespiracular length	11.2	12.5
Orbit diameter	2.5	2.5
1st gill-slit length	1.7	1.7
Interorbital width	7.3	7.5
Internarial width	5.3	5.4
Mouth width	6.1	5.6
1st dorsal-fin length	10.4	9.7
1st dorsal-fin height	7.5	6.5
2nd dorsal-fin length	7.0	6.3
2nd dorsal-fin height	1.1	1.0
Pectoral-fin length	11.0	10.8
Pelvic-fin length	6.4	6.2
Anal-fin length	7.5	7.9
Anal-fin height	1.2	1.6
Dorsal caudal-fin length	29.2	28.4
Preventral caudal-fin length	9.3	9.0
Clasper length	6.1	—

う記録は知られていない。そのため、奄美大島産標本はトガリメザメの薩南諸島における初めての記録であると同時に、本種の太平洋における分布の北限記録となる。

なお、トガリメザメはこれまで水深 100 m までの沿岸域に生息するとされていたが (Springer, 1964; 仲谷, 2011; 青沼ほか, 2013), 本研究における記載標本は、奄美大島西岸沖の水深 180–200 m 地点の海底付近から釣獲された。このことから本種の生息水深は従来考えられていた水深帯より広域におよぶことが示唆された。

謝 辞

本稿執筆に際し、奄美大島の釣り船「ことぶき丸」の武田哲雄氏とおワールドかごしま水族館のみなさまには標本の採集にご協力いただいた。北海道大学名誉教授の仲谷一宏博士には種の同定に関する助言を賜った。また、鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室のみなさまと同博物館のボランティアのみなさまには標本の登録・管理にご協力いただいた。上記の方々に深く感謝申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科研費 (20H03311・21H03651)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリ

カ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- 青沼佳方・山口敦子・柳下直己・吉野哲夫. 2013. メジロザメ科, pp. 171–176, 1761–1762. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- Compagno, L. J. V. 1984. FAO species catalogue. Vol. 4. Sharks of the world. An annotated and illustrated catalogue of shark species known to date. Part 2. Charcharhiniformes. FAO Fisheries Synopsis No. 125, 4: 251–655. [URL](#)
- 岸本浩和・赤川 泉・鈴木伸洋. 2006. 魚類学実験テキスト. 東海大学出版会, 秦野. 130 pp.
- 久新健一郎・尼岡邦夫・仲谷一宏・井田 斉. 1977. インド洋の魚類. 海洋水産資源開発センター, 東京. 392 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 中坊徹次. 2018. メジロザメ科 Carcharhinidae, pp. 30–31. 中坊徹次 (編) 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 小学館, 東京.
- 仲谷一宏. 1984. トガリメザメ, p. 5, pl. 5-C. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 仲谷一宏. 2011. Sharks サメ—海の王者たち—. ブックマン社, 東京. 237 pp.
- Sabaj, M. H. 2020. Codes for natural history collections in ichthyology and herpetology. Copeia, 108: 593–669. [URL](#)
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 207 pp.
- Springer, V. G. 1964. A revision of the charcharhinid shark genera *Scoliodon*, *Loxodon*, and *Rhizoprionodon*. Proceedings of the United States National Museum, 115: 559–632. [URL](#)